

外国語活動



現行の英語活動と外国語活動の目標はどう変わったか。

今回の改訂では、外国語活動においては、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標とした。

【現行の英語活動】

「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること」
(小学校学習指導要領第1章総則第3-5(3))

↓
総合的な学習の時間の中で、国際理解教育の一環として各学校で英語活動の目標を設定。



【新学習指導要領】

★ 外国語活動の目標については以下のとおりである。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

★ 目標の要点について

- ・ 外国語活動の目標をコミュニケーション能力の素地を養うこととし、中学校との連携を図った。
- ・ 外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点を置いた。
- ・ 外国語活動の目標については、学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう、2学年間を通した目標とした。

外国語活動は、「外国語を通じて」という特有の方法によって、この目標の実現を図ろうとするものであることを明確にした。
目標は、三つの柱で構成されている。

(1) 言語や文化についての体験的な理解

- 知識としてではなく外国語を使う活動等を通して、言葉の大切さや豊かさに気付かせる。
- 言葉に対する興味・関心を高め尊重する態度を身に付けさせる。

(2) 積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- 外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとする態度を育成する。
- 他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感させる。
- 積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成する。

- 言葉によらないコミュニケーション手段についても触れさせる。

(3) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ

- 外国語の音声や基本的な表現に「聞くこと」「話すこと」を通して慣れ親しませる。
- 中学校段階の外国語教育の前倒しではない。
- 「～できる」などスキル向上のみを目標とした指導ではない。

これらの(1), (2)及び(3)は, 個別に指導されるのではなく, 「外国語を通じた」コミュニケーション活動の中で, 不可分に結びついているととらえる必要がある。

★ 「コミュニケーション能力の素地」とは

小学校段階で外国語活動を通して養われる, 言語や文化に対する体験的な理解, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度, 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものである。

これらは, 中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものであり, 中学校における外国語科への円滑な移行を図る観点から, 目標として明示したものである。